

1 素材需給の動向

(1) 素材の需要

平成26年の素材の需要量は2,558万5千 m^3 で、前年に比べて44万4千 m^3 (1.7%) 減少した。

これを需要部門別にみると、製材用は1,666万1千 m^3 、合板用は440万5千 m^3 、木材チップ用は451万9千 m^3 で、前年に比べて合板用が22万4千 m^3 (5.4%) 増加したものの、製材用は61万 m^3 (3.5%)、木材チップ用は5万8千 m^3 (1.3%) 減少した。

この結果、需要部門別の構成割合は、製材用が65.1%、合板用が17.2%、木材チップ用が17.7%となった(表1、図1)。

図1 素材需要量の推移

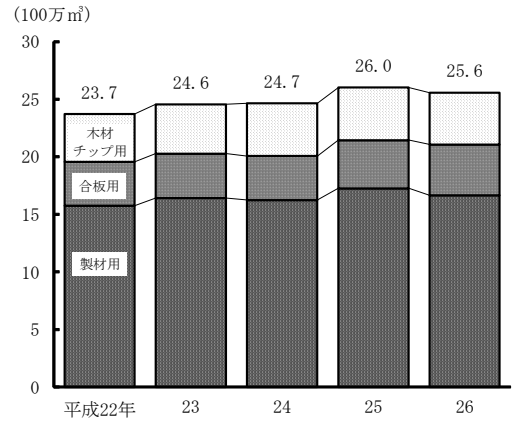


表1 需要部門別素材需要量

年次		計	製材用	合板用	木材チップ用
実数	平成25年	26,029	17,271	4,181	4,577
	26	25,585	16,661	4,405	4,519
対前年比 (%)		98.3	96.5	105.4	98.7
構成比 (%)	平成25年	100.0	66.4	16.1	17.6
	26	100.0	65.1	17.2	17.7

単位: 千 m^3

(参考) 関連統計表

年次	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	2) 製紙パルプ生産量
	千戸	千戸	千t	千t
平成26年	892	489	26,479	8,952
対前年比 (%)	91.0	89.0	100.9	102.1

資料: 1) 国土交通省『建築着工統計』
2) 経済産業省『生産動態統計年報 紙・印刷・プラスチック製品・ゴム製品統計編』

注: 構成比 (%) は、四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある (以下の表において同じ。)

(2) 素材の供給

素材の供給量は、国産材が1,991万6千 m^3 で、前年に比べて27万 m^3 (1.4%) 増加した。

また、外材は566万9千 m^3 で、前年に比べて71万4千 m^3 (11.2%) 減少した。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は77.8%となり、前年を2.3ポイント上回った(表2、図2)。

図2 材種別素材供給量の推移

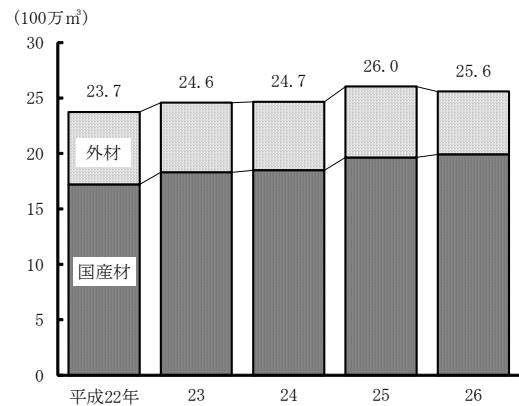


表2 需要部門別、材種別素材供給量

単位: 千 m^3

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューラント材	その他	
実数	平成25年											
計	26,029	19,646	17,246	2,400	6,383	288	213	4,796	458	661	180	
製材用	17,271	12,058	11,932	126	5,213	83	8	3,923	391	639	177	
合板用	4,181	3,016	3,006	10	1,165	204	204	871	x	x	3	
木材チップ用	4,577	4,572	2,308	2,264	5	1	1	2	x	x	-	
実数	平成26年											
計	25,585	19,916	17,743	2,173	5,669	304	221	4,238	436	524	167	
製材用	16,661	12,211	12,116	95	4,450	88	5	3,365	347	489	161	
合板用	4,405	3,191	3,177	14	1,214	216	216	869	88	35	6	
木材チップ用	4,519	4,514	2,450	2,064	5	-	-	4	1	-	-	
対前年比 (%)												
計	98.3	101.4	102.9	90.5	88.8	105.6	103.8	88.4	95.2	79.3	92.8	
製材用	96.5	101.3	101.5	75.4	85.4	106.0	62.5	85.8	88.7	76.5	91.0	
合板用	105.4	105.8	105.7	140.0	104.2	105.9	105.9	99.8	x	x	200.0	
木材チップ用	98.7	98.7	106.2	91.2	100.0	-	-	200.0	x	x	nc	
構成比 (%)												
計	100.0	77.8	69.3	8.5	22.2	1.2	0.9	16.6	1.7	2.0	0.7	
製材用	100.0	73.3	72.7	0.6	26.7	0.5	0.0	20.2	2.1	2.9	1.0	
合板用	100.0	72.4	72.1	0.3	27.6	4.9	4.9	19.7	2.0	0.8	0.1	
木材チップ用	100.0	99.9	54.2	45.7	0.1	-	-	0.1	0.0	-	-	

ア 国産材の供給

国産材の供給量（全国計のみ素材生産量と等しい。）を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,774万3千 m^3 で、全ての需要部門で生産量が増加したことから、前年に比べて49万7千 m^3 （2.9%）増加した。

これを樹種別にみると、えぞまつ・とどまつは、前年に比べて5万4千 m^3 （5.3%）減少したが、素材供給量の6割弱を占めるすぎは、前年に比べて29万2千 m^3 （2.7%）、ひのき、からまつ及びあかまつ・くろまつは、前年に比べてそれぞれ9万5千 m^3 （4.1%）、10万6千 m^3 （4.7%）、5万 m^3 （8.0%）増加した。

また、広葉樹は217万3千 m^3 で、製材用及び木材チップ用の生産量が減少したことから、前年に比べて22万7千 m^3 （9.5%）減少した（表2及び3、図3）。

図3 樹種別素材生産量の推移

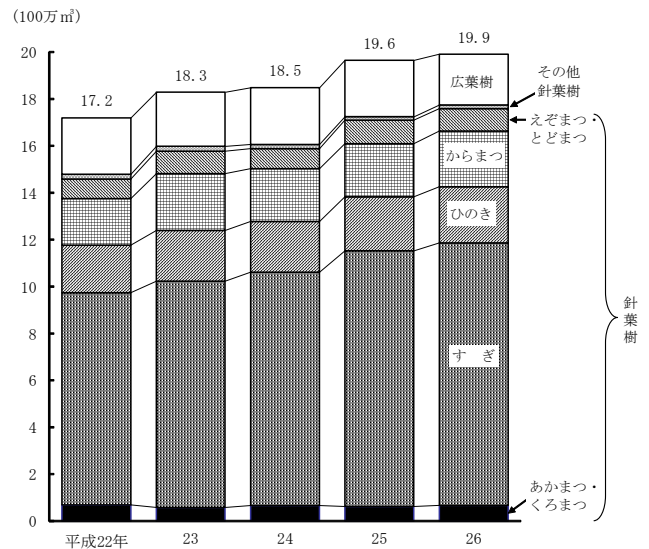


表3 需要部門別、樹種別素材生産量

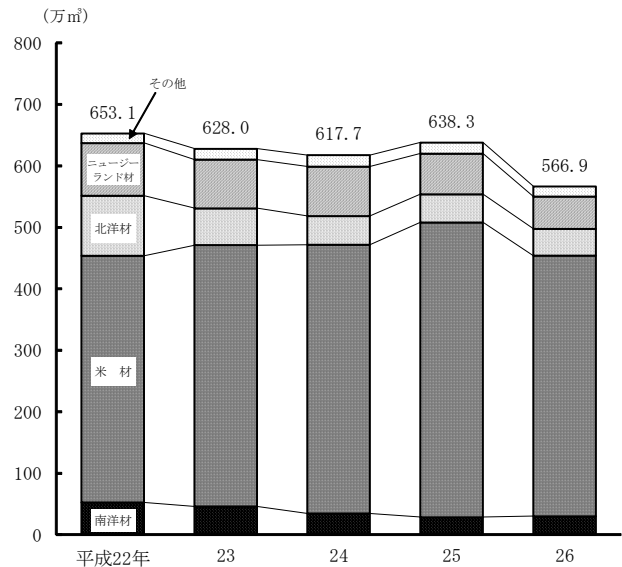
単位：千 m^3

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
実数 平成25年									
計	19,646	17,246	624	10,902	2,300	2,263	1,012	145	2,400
製材用	12,058	11,932	137	7,825	1,953	1,154	805	58	126
合板用	3,016	3,006	142	1,922	104	733	91	14	10
木材チップ用	4,572	2,308	345	1,155	243	376	116	73	2,264
実数 平成26年									
計	19,916	17,743	674	11,194	2,395	2,369	958	153	2,173
製材用	12,211	12,116	176	7,872	2,039	1,270	704	55	95
合板用	3,191	3,177	152	2,111	126	681	94	13	14
木材チップ用	4,514	2,450	346	1,211	230	418	160	85	2,064
対前年比(%)									
計	101.4	102.9	108.0	102.7	104.1	104.7	94.7	105.5	90.5
製材用	101.3	101.5	128.5	100.6	104.4	110.1	87.5	94.8	75.4
合板用	105.8	105.7	107.0	109.8	121.2	92.9	103.3	92.9	140.0
木材チップ用	98.7	106.2	100.3	104.8	94.7	111.2	137.9	116.4	91.2
構成比(%)									
計	100.0	89.1	3.4	56.2	12.0	11.9	4.8	0.8	10.9
製材用	100.0	99.2	1.4	64.5	16.7	10.4	5.8	0.5	0.8
合板用	100.0	99.6	4.8	66.2	3.9	21.3	2.9	0.4	0.4
木材チップ用	100.0	54.3	7.7	26.8	5.1	9.3	3.5	1.9	45.7

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、南洋材は30万4千 m^3 で、前年に比べて1万6千 m^3 （5.6%）増加したものの、外材の7割強を占める米材は423万8千 m^3 、ニュージーランド材は52万4千 m^3 、北洋材は43万6千 m^3 で、前年に比べてそれぞれ55万8千 m^3 （11.6%）、13万7千 m^3 （20.7%）、2万2千 m^3 （4.8%）減少した（表2、図4）。

図4 外材供給量の推移



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成26年12月31日現在の製材工場数は、5,469工場で、前年に比べて221工場(3.9%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、150.0～300.0kW未満の階層を除いて減少している。

また、1工場当たりの出力数は119.8kWで、前年に比べて2.2kW(1.9%)増加した(表4)。

表4 製材工場数、製材用動力の出力数
(平成26年12月31日現在)

出力階層	単位	実数		対前年比	構成比
		平成25年	平成26年		
工場数計	工場	5,690	5,469	96.1	100.0
7.5～22.5kW未満	"	716	692	96.6	12.7
22.5～37.5	"	1,140	1,079	94.6	19.7
37.5～75.0	"	1,759	1,684	95.7	30.8
75.0～150.0	"	1,039	990	95.3	18.1
150.0～300.0	"	604	607	100.5	11.1
300.0kW以上	"	432	417	96.5	7.6
総出力数	kW	669,114.8	654,943.2	97.9	-
1工場当たり出力数	"	117.6	119.8	101.9	-

イ 従業員数

平成26年12月31日現在で操業している工場の従業者数は3万323人で、前年に比べて801人(2.6%)減少した。

また、1工場当たりの従業者数は5.6人で、前年に比べて0.1人(1.8%)増加した(表5)。

表5 従業者数規模別製材工場数及び従業者数(12月操業)

年次	従業者数規模別製材工場数(12月操業)							従業者数 (12月31日現在)	1工場 当たり 従業者数
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上		
実数 平成25年	5,671	3,788	1,143	520	119	74	27	31,124	5.5
	5,448	3,613	1,131	477	123	72	32	30,323	5.6
対前年比(%)	96.1	95.4	99.0	91.7	103.4	97.3	118.5	97.4	101.8
構成比(%) 平成25年	100.0	66.8	20.2	9.2	2.1	1.3	0.5	-	-
	100.0	66.3	20.8	8.8	2.3	1.3	0.6	-	-

ウ 製材用素材消費量

平成26年の製材用素材消費量は、1,663万 m^3 で、前年に比べて69万1千 m^3 (4.0%)減少した。

これを製材用動力の出力階層別にみると、7.5～22.5kW未満の階層において前年に比べて増加したものの、それ以上の出力階層において減少している。特に消費量の7割弱を占める300.0kW以上の階層において、前年に比べて45万7千 m^3 (4.0%)減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は3,041 m^3 で、前年に比べて3 m^3 (0.1%)減少した(表6、図5)。

図5 製材工場数及び素材消費量の出力階層別構成割合(平成26年)

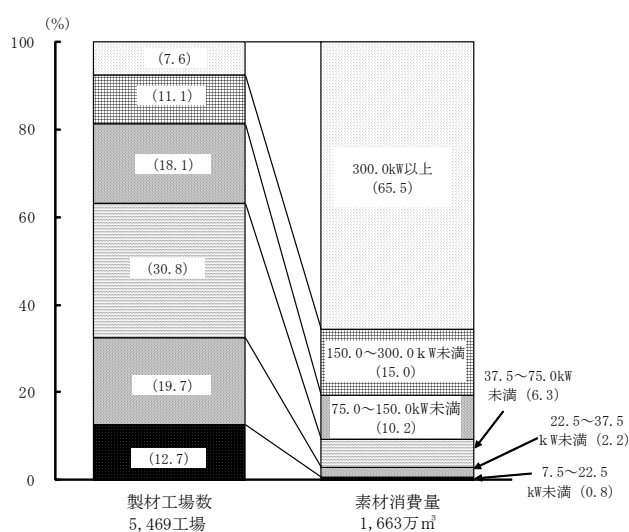


表6 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	単位	実数 平成25年	実数 平成26年	対前年比	構成比
計	千m ³	17,321	16,630	96.0	100.0
7.5～22.5kW未満	〃	126	138	109.5	0.8
22.5～37.5	〃	398	358	89.9	2.2
37.5～75.0	〃	1,078	1,051	97.5	6.3
75.0～150.0	〃	1,826	1,690	92.6	10.2
150.0～300.0	〃	2,542	2,499	98.3	15.0
300.0kW以上	〃	11,351	10,894	96.0	65.5
1工場当たり消費量	m ³	3,044	3,041	99.9	-

エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成26年の製材用素材入荷量は1,666万1千m³で、前年に比べて61万m³（3.5%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,221万1千m³で、前年に比べて15万3千m³（1.3%）増加したものの、外材の入荷量は445万m³で、前年に比べて76万3千m³（14.6%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は73.3%で、前年（69.8%）を3.5ポイント上回った（表7、図6）。

図6 製材用素材の入荷量の推移

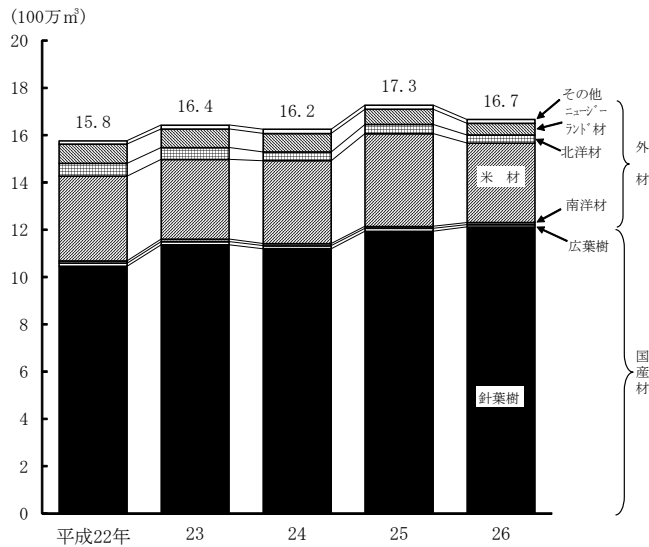


表7 材種別製材用素材の入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
実数 平成25年	17,271	12,058	11,932	126	5,213	83	8	3,923	391	639	177	
26	16,661	12,211	12,116	95	4,450	88	5	3,365	347	489	161	
対前年比 (%)	96.5	101.3	101.5	75.4	85.4	106.0	62.5	85.8	88.7	76.5	91.0	
構成比 (%) 平成25年	100.0	69.8	69.1	0.7	30.2	0.5	0.0	22.7	2.3	3.7	1.0	
26	100.0	73.3	72.7	0.6	26.7	0.5	0.0	20.2	2.1	2.9	1.0	

(イ) 平成26年に素材の入荷があった製材工場は5,436工場で、前年に比べて223工場（3.9%）減少した。

これを入荷類型別にみると、国産材のみは4,112工場、国産材と外材は1,011工場、外材のみは313工場で、前年に比べてそれぞれ35工場（0.8%）、152工場（13.1%）、36工場（10.3%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは1,116万1千m³で、前年に比べて18万6千m³（1.7%）増加したが、国産材と外材は282万8千m³、外材のみは267万2千m³で、前年に比べてそれぞれ36万2千m³（11.3%）、43万4千m³（14.0%）減少した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、「300.0kW以上」の工場が入荷量の全体の6割強を占めている（表8）。

表8 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量 千m ³	工場数	入荷量 千m ³	工場数	入荷量 千m ³	工場数	入荷量 千m ³
平成25年								
計	5,659	17,271	4,147	10,975	1,163	3,190	349	3,106
7.5～22.5kW未満	711	125	611	103	88	17	12	5
22.5～37.5	1,130	390	933	310	162	70	35	11
37.5～75.0	1,751	1,073	1,180	723	465	277	106	73
75.0～150.0	1,032	1,825	709	1,310	235	342	88	173
150.0～300.0	603	2,558	393	1,834	146	434	64	290
300.0kW以上	432	11,300	321	6,695	67	2,050	44	2,554
平成26年								
計	5,436	16,661	4,112	11,161	1,011	2,828	313	2,672
7.5～22.5kW未満	685	136	571	116	94	17	20	3
22.5～37.5	1,074	357	908	294	131	55	35	8
37.5～75.0	1,671	1,072	1,236	781	358	241	77	50
75.0～150.0	988	1,697	684	1,236	224	315	80	146
150.0～300.0	604	2,508	411	1,846	130	376	63	286
300.0kW以上	414	10,891	302	6,888	74	1,824	38	2,179
対前年比(%)								
計	96.1	96.5	99.2	101.7	86.9	88.7	89.7	86.0
7.5～22.5kW未満	96.3	108.8	93.5	112.6	106.8	100.0	166.7	60.0
22.5～37.5	95.0	91.3	97.3	94.8	80.9	78.6	100.0	72.7
37.5～75.0	95.4	99.9	104.7	108.0	77.0	87.0	72.6	68.5
75.0～150.0	95.7	93.0	96.5	94.4	95.3	92.1	90.9	84.4
150.0～300.0	100.2	98.0	104.6	100.7	89.0	86.6	98.4	98.6
300.0kW以上	95.8	96.4	94.1	102.9	110.4	89.0	86.4	85.3

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は959万5千m³で、前年に比べて50万5千m³（5.0%）減少した。

これを用途別にみると、出荷量の8割強を占める建築用材で、前年に比べて39万m³（4.7%）減少した他、各用途でも減少した。

また、人工乾燥材出荷量は321万9千m³で、前年に比べて23万5千m³（7.9%）増加し、製材品の出荷量に占める人工乾燥材出荷量の割合は33.5%で、前年（29.5%）を4.0ポイント上回った（表9、図7）。

図7 用途別製材品出荷量の推移

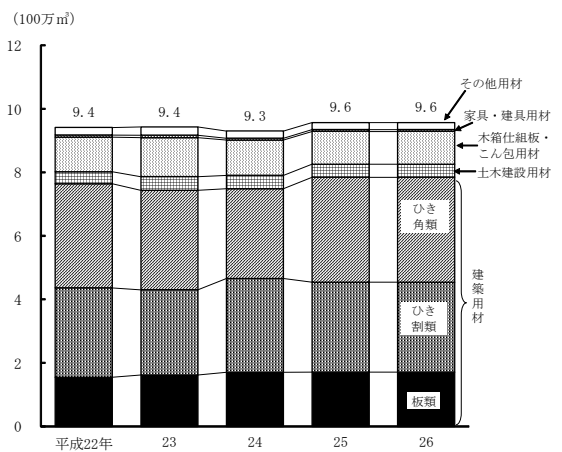


表9 用途別製材品出荷量

単位：千m³

年次	計	建築用材					土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
		人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類				
実数 平成25年	10,100	2,984	8,265	1,674	3,055	3,536	476	1,084	57	218
26	9,595	3,219	7,875	1,711	2,839	3,325	409	1,033	56	222
対前年比(%)	95.0	107.9	95.3	102.2	92.9	94.0	85.9	95.3	98.2	101.8
構成比(%) 平成25年	100.0	29.5	81.8	16.6	30.2	35.0	4.7	10.7	0.6	2.2
26	100.0	33.5	82.1	17.8	29.6	34.7	4.3	10.8	0.6	2.3

(2) 合単板製造業

ア 合単板工場数及び従業者数

平成26年12月31日現在の合単板工場数は186工場で、前年に比べて9工場（4.6%）減少した。これを製造種類別にみると、普通合板と特殊合板を製造している工場は、前年に比べて1工場増加したが、その他の工場は前年に比べて減少した。

合単板工場の従業者数は6,987人で、前年に比べて139人（2.0%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は37.6人で、前年に比べて1.1人（2.8%）増加した（表10）。

表10 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成26年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり従業者数
	計		9人以下	10~49	50~99	100~199	200~299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人	
平成25年計	195	99.0	96	62	13	17	5	2	7,126	97.5	36.5
単板のみ	14	87.5	6	7	-	1	-	-	347	93.0	24.8
普通合板のみ	31	91.2	2	7	6	13	2	1	1)3,603	1)95.8	1)109.2
普通合板と特殊合板	2	100.0	-	-	1	1	-	-
特殊合板のみ	148	102.1	88	48	6	2	3	1	3,176	99.9	21.5
平成26年計	186	95.4	87	61	13	17	6	2	6,987	98.0	37.6
単板のみ	14	100.0	6	6	-	2	-	-	325	93.7	23.2
普通合板のみ	29	93.5	2	7	4	12	3	1	1)3,565	1)98.9	1)111.4
普通合板と特殊合板	3	150.0	-	1	1	1	-	-
特殊合板のみ	140	94.6	79	47	8	2	3	1	3,097	97.5	22.1

注：1)は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

イ 単板製造用素材入荷量

平成26年の単板製造用素材の入荷量は440万5千m³で、前年に比べて22万4千m³（5.4%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は319万1千m³、外材は121万4千m³で、前年に比べてそれぞれ17万5千m³（5.8%）、4万9千m³（4.2%）、増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は72.4%で、前年（72.1%）を0.3ポイント上回った（表11、図8）。

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

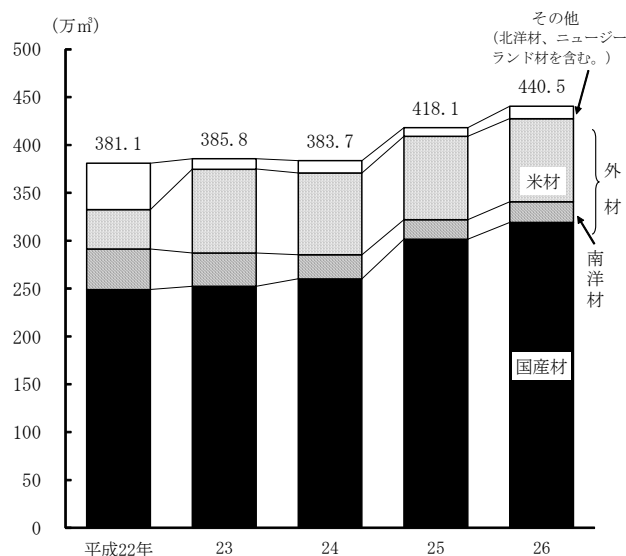


表11 材種別単板製造用素材の入荷量

年次	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材		米材	北洋材	ニュージーランド材	その他	
						針葉樹	ラワン材					
実数 平成25年	4,181	3,016	3,006	10	1,165	667	204	204	871	x	x	3
26	4,405	3,191	3,177	14	1,214	941	216	216	869	88	35	6
対前年比 (%)	105.4	105.8	105.7	140.0	104.2	141.1	105.9	105.9	99.8	x	x	x
構成比 (%) 平成25年	100.0	72.1	71.9	0.2	27.9	16.0	4.9	4.9	20.8	x	x	x
26	100.0	72.4	72.1	0.3	27.6	21.4	4.9	4.9	19.7	2.0	0.8	0.1

単位：千m³

ウ 普通合板生産量

平成26年の普通合板生産量は281万3千 m^3 で、前年に比べて2千 m^3 （0.1%）増加した。

これを厚さ別にみると、全体の8割強を占める「12mm以上」の階層で2万5千 m^3 （1.1%）、「3～6mm未満」で2千 m^3 （2.4%）増加したものの、「6～12mm未満」で2万5千 m^3 （7.4%）減少した。

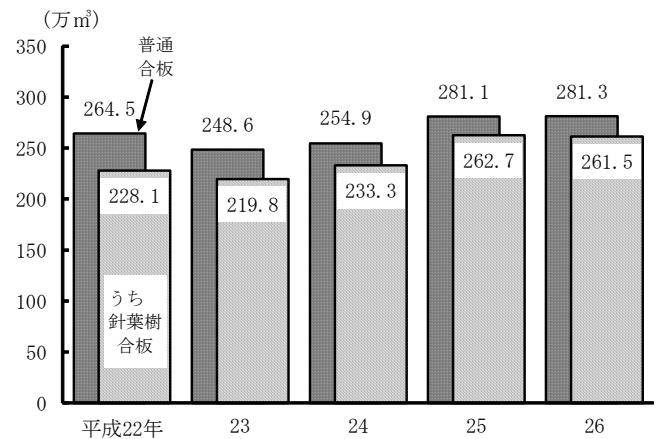
また、生産量のうち針葉樹合板生産量は261万5千 m^3 で、前年に比べて1万2千 m^3 （0.5%）減少した。

この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は93.0%で、前年（93.5%）を0.5ポイント下回った（表12、図9）。

表12 普通合板生産量

区 分	平成25年	平成26年	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3	%	%
普通合板生産量	2,811	2,813	100.1	100.0
3 mm 未 満	17	17	100.0	0.6
3 ～ 6 mm	82	84	102.4	3.0
6 ～ 12 mm	339	314	92.6	11.2
12 mm 以 上	2,373	2,398	101.1	85.2
うち針葉樹合板	2,627	2,615	99.5	93.0

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

平成26年の特殊合板生産量は58万4千 m^3 で、前年に比べて7万 m^3 （10.7%）減少した。

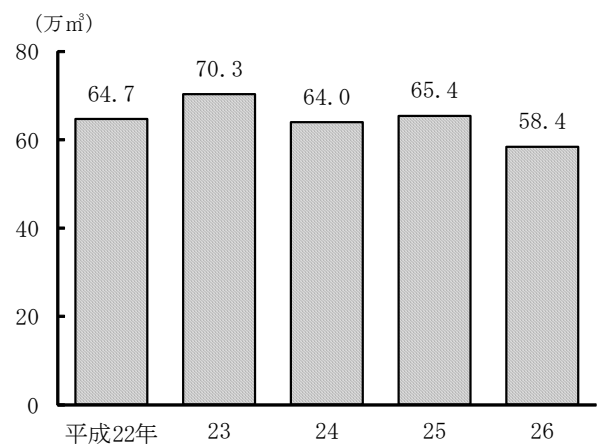
これを種類別にみると、プリント合板は、前年に比べて1万 m^3 （16.7%）増加したものの、天然木化粧合板は、前年に比べ1万6千 m^3 （41.0%）減少した。

なお、オーバーレイ合板及び塗装合板は前年並みだった（表13、図10）。

表13 特殊合板生産量

区 分	平成25年	平成26年	対前年比	構成比
	千 m^3	千 m^3	%	%
特殊合板生産量	654	584	89.3	100.0
オーバーレイ合板	18	18	100.0	3.1
プリント合板	60	70	116.7	12.0
塗装合板	5	5	100.0	0.9
天然木化粧合板	39	23	59.0	3.9
その他の合板	532	468	88.0	80.1
うち木質複合床板	314	294	93.6	50.3

図10 特殊合板生産量の推移



(3) 木材チップ製造業

ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成26年12月31日現在の木材チップ工場数は1,477工場で、前年に比べて33工場（2.2%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、製材又は合単板工場との兼営工場は1,092工場、木材チップ専門工場は385工場で前年に比べそれぞれ29工場（2.6%）、4工場（1.0%）減少した。

また、木材チップ工場の従業者数（製材又は合単板工場との兼営工場の従業者のうち、主たる業務が木材チップ業務以外のものを除く。）は2,853人で、前年に比べて108人（3.6%）減少した。

なお、1工場当たりの従業者数は1.9人で、前年に比べて0.1人（5.0%）減少した（表14）。

表14 専門・兼営区別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数
（平成26年12月31日現在）

専門・兼営区別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数
	計		4人以下	5～9	10～19	20人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比							
	工場	%	工場	工場	工場	工場	人	%	人
平成25年計	1,510	98.3	1,298	152	51	9	2,961	102.8	2.0
木材チップ専門工場	389	100.0	200	132	50	7
製材又は合単板工場との兼営工場	1,121	97.7	1,098	20	1	2
平成26年計	1,477	97.8	1,279	141	49	8	2,853	96.4	1.9
木材チップ専門工場	385	99.0	209	122	47	7
製材又は合単板工場との兼営工場	1,092	97.4	1,070	19	2	1

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合単板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

イ 木材チップ用素材入荷量

平成26年の木材チップ用の素材入荷量は451万9千m³で、前年に比べて5万8千m³（1.3%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は451万4千m³で、前年に比べ万5万8千m³（1.3%）減少したものの、外材の入荷量は5千m³で、前年並だった（表15、図11）。

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

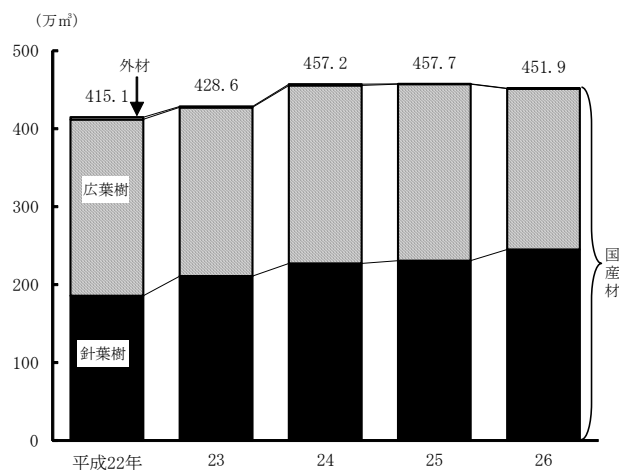


表15 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

単位：千m³

年次	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニューズランド材	その他
実数 平成25年	4,577	4,572	2,308	2,264	5	1	1	2	x	x	-
26	4,519	4,514	2,450	2,064	5	-	-	4	1	-	-
対前年比 (%)	98.7	98.7	106.2	91.2	100.0	-	-	200.0	x	x	nc
構成比 (%) 平成25年	100.0	99.9	50.4	49.5	0.1	-	-	-	x	x	-
26	100.0	99.9	54.2	45.7	0.1	-	-	0.1	0.0	-	-

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成26年の木材チップ生産量は585万 t で、前年に比べて60万 2 千 t (9.3%) 減少した。これを原材料別にみると、全ての原材料で減少しており、前年に比べて素材(原木)は7万 3 千 t (2.8%)、工場残材は2万 6 千 t (1.3%)、解体材・廃材は、47万 1 千 t (27.8%)、林地残材3万 2 千 t (22.5%)、それぞれ減少した。

また、針葉樹・広葉樹別にみると、針葉樹は322万 2 千 t で前年に比べて1万 5 千 t (0.5%) 増加したものの、広葉樹は140万 5 千 t で前年に比べて14万 6 千 t (9.4%) 減少した(表16、図12)。

表16 木材チップ生産量

区 分	平成25年	平成26年	対前年比	構成比
	千 t	千 t	%	%
木材チップ生産量	6,452	5,850	90.7	100.0
原材料別				
素材(原木)	2,610	2,537	97.2	43.4
工場残材	2,006	1,980	98.7	33.8
林地残材	142	110	77.5	1.9
解体材・廃材	1,694	1,223	72.2	20.9
針葉樹・広葉樹別				
針葉樹	3,207	3,222	100.5	-
広葉樹	1,551	1,405	90.6	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移

